

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより



< 6月号 >

令和元年 6月3日

TEL 03-3977-2711

校長 高野博文

第101号

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-ky.ed.jp/>

運動会を振り返って

校長 高野博文

5月25日（土）光が丘四季の香小学校、第10回運動会を実施しました。皆様からはアンケートによるたくさんのご意見をいただきました。もちろん私は全アンケートに目を通しています。その中には運動会での子供たちの活躍を褒め称える感想がとても多くありました。また、来年度に向けての要望や改善した方がよいところなどのご指摘もありました。今、その集計と反省を行い、来年度に向けた方針を立てているところです。

さて、今年度の運動会を「子供たちの健やかな成長」というテーマで皆様と一緒に振り返ってみたいと思います。

異常な暑さの中、午後の競技において逆転を果たした白組勝利に終わった今年度。まずこの運動会では、競うことを前提としています。子供たちはこの「競い合い」から何を学ぶのでしょうか。アンケートの中には、「勝負に負けたくやささで涙する我が子に対して温かく見守ります。」といったものや「勝った喜びを全身に表す我が子をほほえましく思う。」というものがありました。これは、子供たちが全力を出し切った証ではないでしょうか。私自身も一番印象に残ったことは、子供たちが純粋に全力で競技や演技に取り組む姿でした。この健やかで熱い気持ちはいつまでも持ち続けてほしいです。また、応援合戦に象徴されるように、相手がいるからこそ「競い合える」。自分を大切に思いながら相手を思いやる気持ちも成長したのではないかと思います。

次に演技ですが、体育では「表現」という領域になり、小学校の運動会では花形でもあります。日本伝統の踊りをモチーフにしたものやポップ系の音楽に合わせたダンス、また学校によっては毎年次の学年にひきつぐ伝統的なものもあります。各学年の児童の発達段階に合わせた演技の中には、動きが複雑なものや音に合わせる難しさをもつもの、肉体的に疲労の激しいもの、役割分担のはっきりしたものなどたくさんあります。それらの演技の練習は、個人の技術の習得に始まり、アレンジ、隊形の習得、そして演技者すべての気持ちをそろえるという行程があります。これらの壁をすべて乗り越え、演じきった子供たちには何が残るのでしょうか。数ある成長の中でも、私が考える最も価値あるもの、それは、子供たちの「自己肯定感」の高揚です。運動会直後の子供たちの瞳は自身に満ちあふれていました。私たち教職員は、その時、心の底からの感動を子供たちからもらえるのです。これからも行事を通し「子供たちの健やかな成長」を目指していきます。

